# 令和２年度第１回高知市地域アクションプランフォローアップ会議　議事概要

日時：令和２年９月 23 日（水）14:00～16:00
場所：高知市役所６階　大会議室
出席：委員 12 名中、12 名が出席（代理出席２名含む）
議事：（１）産業振興計画関連　年間スケジュールについて
　　（２）地域アクションプランについて
　　１）第３期高知市地域アクションプランの取り組みの総括について
　　２）第４期高知市地域アクションプランの進捗状況等について
　　３）修正・追加等の案件について
　　（３）産業成長戦略について
　　１）移住促進の取り組みについて
　　２）観光振興の取り組みについて

議事（１）（２）（３）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）
（１）産業振興計画関連　年間スケジュールについて
　意見交換等、特になし

（２）地域アクションプランについて
（岡﨑座長）
まず、宮脇委員から新型コロナの影響も含めた現状をご説明いただきたい。

（宮脇委員）
花卉については、今年３月の彼岸の時期から全然売れなくなっていた。現場も相当疲弊しており、４月の歓送迎会や５月の母の日等も需要がない状態が続いていたが、現在は若干消費が上がってきている。現在、高知市の協力もあり、市役所やオーテピア等で高知県産の花を使ったフラワーアレンジメントを提供して PR をしている。
それぞれの品目について、JA 高知市、酪農農業協同組合、高知市役所、高知農業改良普及所が資金と人材を出し合い、地域の課題について取り組みをしているところ。
「No. 4　ユズを核とした中山間農業の活性化」については、特に収穫等における労働力確保が今後非常に課題になってくる。今年から労働力確保のために LINE による大学生のバイトの募集を始めた。大学生に農業に触れ合いながら新型コロナの感染リスクも少なくバイトをしてもらうことで、農家と大学生両方のニーズが合致することを期待している。また、青玉集荷に向けて、新たに選果機も導入し、作業場も全て LED 化し、高品質の生産が出来るよう取り組んでいる。ドローンについては昨年から取り組んでおり、今年は省力化のためにアシストスーツや電動剪定バサミの試験導入を開始した。

ユズの精油については、販売が順調。精油の生産量が増えるのに伴い、ユズの果汁と皮の両方を冷凍保管する必要があり、保管庫、冷凍庫の確保が困難になってきている。地産外商を進めていくのであれば、これらの確保が必要。

「No.11 イタドリの外商推進による中山間地域の振興」については、皮剥ぎ機開発の話について、現状どうなっているのか教えてほしい。イタドリは生産拡大にあたり、加工作業場の労力の平準化が課題。急速冷凍してから皮を剥ぐのだが、剥ぎにくいとの調査結果が出ているため、改善の必要がある。

「No.８ 加工品の充実による直販所の活性化と食の伝承」について、食の提供のため、全ての直販所にHACCAPを導入する必要があると考えている。学校給食等にも提供している味噌の生産場所を１カ所に集約し、HACCAPの衛生管理に沿った安全安心な味噌を提供していくため工事に着手している。

高知市内の直販所については、同じ高知市内でも、西の直販所で新高梨は販売しているが、東の直販所でイチゴを販売していないという場合があり、その逆も同じことが起きている。各直販所には連携していただき、保冷車の巡回によって、どの直販所でも高知市の食材が手に入るということができないか提案をしているところ。商品コードの統一、保冷車及び運転手の確保等の課題はあるが、前向きに考えてもらうよう話をしている。

（岡﨑座長）

一次産品において食べ物はまずまず堅調だが、花卉は大量消費されるイベント、結婚式、コンサート等があまりないため、非常に苦労している。

（島田委員）

「No.１ キュウリの生産販売対策の強化による産地振興」について、春野の品目のキュウリとショウガは幸い新型コロナの影響が少なかった。逆に家庭内の消費があり、キュウリの販売額は過去最高。キュウリについては、近年炭酸ガスの発生装置や新規就農者等の取り込みにより、高齢化による栽培面積の減少の流れに歯止めをかけるよう取り組みを進めている。

新規就農者については、農家が新規就農者への指導・育成にあたる指導農業士の資格を取得しており、指導農業士は11名、研修生が12名おり、そのうち４名が新規就農者である。県外者は５名おり、大きな数字ではないが、そのような取り組みにより、キュウリの生産維持に努めている。

キュウリ、ショウガについては県下で40%から45%のシェアがあり、農家は労働力確保や秋口に発生する台風等の影響による単価の上昇等への対応のため、生産が若干前倒しになる傾向にある。

R５目標値に掲げているように、出荷量が１万2000トン以上になると、収穫時期の後半の収量をいかに確保していくかが重要。６月で概ね収穫を終える農家が多いため、６月いっぱいできるだけ収穫してもらうような取り組みが必要になる。

作業員の確保については、キュウリやショウガは出荷場に空調設備を設置し、作業員の確保による雇用者対策にも取り組んでいる。

「No.３ 新ショウガの生産振興」については、炭酸ガス等の環境制御装置の普及を進めてい

るところ。新ショウガは土の中にあり、年１回の収穫のため目に見える管理や変化がつかみにくい。データ化の技術もまだ十分ではない。データ化、環境整備を中心とした生産面での技術指導を引き続き指導いただきたい。

（岡﨑座長）
　秋口から囲いショウガの収穫が始まる。長雨で病害を心配していたが、今のところ大丈夫そう。針木の梨はこの間の台風の影響はないのか。

（宮脇委員）
　落果は0.1％とのこと。

（岡﨑座長）
　それでは、春野地区の農産物について、西込委員から説明いただきたい。

（西込委員）
　「No.12 春野地区の農産物の付加価値向上」について、ベルガモットは８月31日の高知新聞に掲載され、非常に高い関心を持っていただき、嬉しく思った。先日の台風11号で３％ほどが枝が折れて落果した。仕事が忙しく摘果をしていなかったため、実の重さで落果したものがコンテナで５つ、６つぐらいになったが、ネットで紹介すると完売できた。落下した果実でも売れたことから、普通の果実と違う有利性が実感できた。春野一帯で量産していきたいが、経営面、栽培技術面を総括してやる必要があり、大変難しい。移住者の方が関心を示しているので、意欲ある方に参画してもらおうと思っている。

（岡﨑座長）
　ベルガモットは注目されるようになると思う。
　今年は色々なフードフェア等が中止となったが、どのような状況か吉野委員にご説明いただきたい。

（吉野委員）
　「No.11 イタドリの外商推進による中山間地域の振興」については、県外の展示会等でのPR準備をしていたが、全て中止になってしまった。10月からは展示商談会が始まるようなので、県内外合わせて４回ぐらいはPRのチャンスがあると思う。
　また、イタドリがJALのファーストクラスの機内食に採用され、HACCP取得の要望があるため、JA高知市の鏡支所で取り組んでいるところ。
　皮剥ぎ機については、約10年ぐらい前から開発をしており、試作機はできたものの、イタドリの収穫時期しかテストが出来ず、なかなか改良が進んでいない。
　イタドリの葉はチョコレートなどと比べてもポリフェノールが豊富に含まれており、今後どのようにPR・販売していくかがテーマとなる。

（岡﨑座長）
　イタドリの葉のお茶はどうか。

（吉野委員）
　お茶も販売しており、あまり熱を加えると有効成分が飛んでしまうため、上手な利用方法を考えていく必要がある。

（岡﨑座長）
　それでは、水産について説明をお願いしたい。

（山﨑委員）
　御畳瀬で家業として漁業を営んでいる。例年は９月から徳島県沖で操業を開始するが、今年は暑さや台風の影響により、10 月から土佐沖で開始することとしている。現状の課題としては年々漁業者のなり手が少なくなっている。漁師になる若い世代の方が少なくなっていることもあり、県･市とともにこれからのことを検討している。人材確保等を今後の課題としてやっていきたい。

（岡﨑座長）
　続いて、林業について説明をお願いしたい。

（池田委員）
　高知市の林業の最大の特徴は、大きな林業会社はたくさんあるが、事業所としての所在が高知市にあるだけで、ほとんどのフィールドは郡部であること。私が知る限り、鏡川流域で林業を生業としている人は土佐山に１人いるくらい。これが産業と言えるかどうか、正直非常に難しいところ。林業協同組合ではなく森林組合と言うのも、それを物語っている。業としては非常に厳しい産業であるが、一方できちんと森林の保全活動に取り組み、水源涵養や二酸化炭素の吸収というような公益的機能として貢献しなければならない重要な産業であり、環境保全の点でも頑張らなければと思っている。
　新型コロナの影響で、木造建築の現場の動きが止まり、木材の価格も１立方メートルあたり 2,000 円程値下がりしており補助金に頼るなど厳しい状況。高知市森林組合も頑張らねばならないが、現場の作業員が 10 名しかおらず、林業大学校で人材を育成するにしても１人前になるには最低５・６年はかかるので、現状では素材生産量は年間目標 3,000 立方メートル程度。流域全体の必要な間伐数に比べて、10 分の１ぐらいしか進んでいないのではないかと感じる。
　木が大きくなりすぎると、グラップルという木材を掴む高性能林業機械をせっかく導入しているのに、使用が難しくなる。木が大きくなるほど値打ちが上がりそうだが、日本中で全ての木が大径木になると相場が値崩れする。今は搬出間伐で頑張っているが、本来の自然植生に合わせて樹種転換を図ることも検討していきたい。

（岡﨑座長）
　林業について説明いただいたが、野菜も同様に大きくなりすぎると商品にならない。漁業も同じで、例えばタイはまな板からはみ出てしまう程大きくなると、捌くのに手間がかかるため出荷に適さない。30cm から 40cm が適正サイズであり、それ以上に大きくなると商品にならない。新型コロナの影響で出荷できず、育ち過ぎてしまった野菜や魚等が多かったように思う。
　工業関係はどうか。

（彼末委員）
　各会社の景況については、それぞれ扱っている製品や分野、業態が異なるため、新型コロナにより悪い影響が出ている企業もあれば、良い影響がでている企業、あるいはこれから影響が出てくるのではないかと心配している企業もいる。ただし、状況は少し改善の見通しがあるので、これから動きが出てくるのではないかと思う。

（岡﨑座長）
　高知商工会議所の方はどうか。

（杉本委員）
　よさこい祭りは中止になったが、関係者のバックアップにより、よさこいを盛り上げる動きができた。
　販促や商談会、研修会などはコロナ禍によりリモートになったが、十分に開催できている。ただし、企業の中にはネット環境が整っていないところもあるのでそこのバックアップが必要。
　また、持続化補助金の申請件数や融資の相談件数が非常に多くなった。しかし融資が即預金に回っている。償還時期に返済がどうなるか心配をしている。
　Go To イートキャンペーンについては、県内のファミリーマート、商工会、商工会議所でプレミアム付き食事券を販売していくこととしており、現在飲食店の募集を行っている。一つ問題なのは、Go To イートキャンペーンの参加店舗になっていないと、Go To トラベルクーポン券が使えないこと。それが分かったのが９月８日であり、そこから準備を始めて９月 18 日に新聞発表を行ったところであり、振り回されている。県内に約 4,000 店舗の飲食店があるが、できるだけ参加していただいて取り組みを進めていきたい。

（岡﨑座長）
　Go To トラベルクーポン券はどこでも使えると思っていたが、Go To イートキャンペーンの参加店舗でないと使えないのは初めて聞いた。
　続いて、観光関連について説明いただきたい。

（国沢委員）
　観光業については、よさこい祭りがなくなり、かなり深刻な状況になった。ホテル・旅館は、直接雇用だけでなく、土産、仕入れの飲食、ランドリー等様々な業態に影響がある。
　観光業を維持・継続させるため、高知市観光協会で「お城下に泊まろうキャンペーン」を実

施した。期間中約 7,000 人に宿泊いただき、約１億 5,000 万円の経済効果があったと考えられる。

新型コロナの収束後、全国で観光客の取り合いが予想される。そのときを見据え、より集客力の強いイベントを高知市に誘致していく。

また、８月頃に教育旅行、いわゆる修学旅行の行き先が変更されると強く示されたので、高知市に行き先が変更可能な方面に向けて誘致を行っている。さらに、これまでにスポーツ系であった合宿誘致事業に文化系の活動も組み込み、10 月から誘致を開始する。

コロナ禍で、旅行のニーズがあるか心配をしていたが、「お城下に泊まろうキャンペーン」の結果やシルバーウィーク期間中桂浜に渋滞ができたという状況を見て、潜在的なニーズはあると感じた。これからも新しい形で高知に来ていただける取り組みを進めていきたい。

（泉委員）

次のよさこい祭り開催までに、本家よさこいの魅力を改めてアピールする新たな仕掛けを考え、ブランド力を高めていきたい。

（岡﨑座長）

よさこい祭りについては、帯屋町アーケード等での流しの際に、観客の規制をどのようにするか考える必要がある。無観客にはしたくないので、観覧エリアのようなものを検討する必要がある。全国的にも、大きな祭りやよさこい関係のイベントでは同じ問題意識を抱えていると思うので、情報収集を行いながら、来年に向けてお客様に見てもらう方式を考えていきたい。

（泉委員）

お客様と一緒につくるのが本家よさこいの良さだと思う。あまり規制をされると良さが消えてしまうので、よさこいチームが本来の姿で踊れるようにしていければ。

（岡﨑座長）

町田委員、今年はインバウンドは少ないかもしれないが。

（町田委員）

新型コロナの感染症拡大による海外からの大型客船の来高中止に伴い、おせっかい協会の活動も行えていない。そこで視点を変えて、県内在住と四国在住の外国の方に高知の情報を発信してもらう等、実際動くのではなく、PR の部分で何かサポートが出来ないかと相談を受けている。

黒潮町で三者共同による民宿を始めたところだが、県内在住の外国人留学生に泊まってもらい、英語で日本や高知の良さを SNS 等で情報発信してもらう試みを考えている。

（岡﨑座長）

時間があるので、できるだけ有効にという意見だったと思う。

（３）産業成長戦略について

移住について

（宮脇委員）

最近、透析患者が高知に帰りたいという希望があった際に、１週間隔離後、陰性が確認できなければ病院が受け入れないということがあった。感染症拡大時の健常者以外のＵ・Ｉターンの方々の受入態勢を強化する必要があるように思う。

（以上）